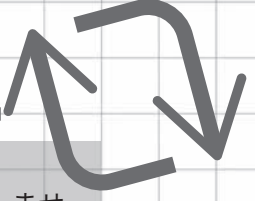


文芸オタクの私が教える buzz!



バズる文章教室



バズる文章とは、尖^{とが}った言葉を含むものでも、特殊な内容のものでもない。読者を楽しませ、その心をつかむ文章である。読者の心をつかむことができれば自然と読者が増え、結果としてバズるのだ。本書には、自称文芸オタクの筆者がさまざまな文芸作品（詩・小説など）から抽出した、心をつかむ文章の書き方が網羅されている。

例えば、「配役を固定する」というテクニックを見てみよう。これは、ある文章の中で言いたいことを書き出し、いくつかのグループにして言いたいことの「センター」を選び出し、それを中心に文章を組み立てるといったものだ。下の文章は、テクニックを使う前の文章である。

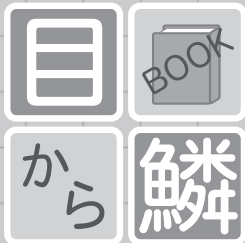
地元を離れる友達と喫茶店で会った。私はメニューを見ずにコーヒーを注文し、友達はメニューを熟読してからかき氷を注文した。その店のおすすめはかき氷なんだという。でもその店はコーヒーも豆やカップなどもこだわっている風だった。私たちは別れを惜しみつつ、楽しい時間を過ごすことができた。

書いてあることは全て事実だ。しかし、言いたいことの方向性がバラバラで何を言いたいのか伝わらず、魅力に欠ける文章になっている。これに、上記のテクニックを使ってみる。

地元を離れる友達と喫茶店で会った。私はメニューを見ずにコーヒーを注文し、友達もメニューを熟読してからかき氷を注文した。その店のおすすめはかき氷なんだという。私は地元を離れてしまう友達と、一刻も早く喋りたかったが、友達の方は、私との最後の思い出が記憶に残るよう、とにかく美味しいものを食べたかったのだとか。私たちは別れを惜しみつつ、とても楽しい時間を過ごすことができた。

友達と楽しい時間を過ごすことができた、という「言いたいこと」が文章のセンターとなり、伝わる文章に変化したのではないだろうか。

バズるといって少し壁を感じる人もいるかもしれない。しかし、心をつかむ文章の書き方は、レポート・メッセージのやりとり・手紙などあらゆる表現に使うことができる。本書で身につけたテクニックは間違いなく、一生ものになるだろう。



『文芸オタクの私が教える バズる文章教室』

著者：三宅香帆

出版社：サンクチュアリ出版

定価：1400円（税別）

